

～管内で、成牛に牛サルモネラ症が発生～
原因菌はSalmonella Typhimurium(ST)でした。
本疾病は家畜伝染病予防法における届出伝染病です。

発生家畜：成牛

症 状：発熱、食欲不振、水溶性下痢（偽膜を伴う）

対 応：発症牛の隔離

畜舎周辺、畜舎内の消毒

※ 現在飼養牛全頭の糞便検査、飼養環境検査を実施中
また、全頭へのワクチン接種を予定

※ 南部家保管内でも1月にSTの発生が確認されています。

サルモネラ症の症状

●子牛●

○元気消失 ○食欲不振～廃絶 ○発熱（40～42℃）

○下痢（悪臭がある。泥状～水様便。悪化すると血便。）

* 症状なく突然死することがある。

* 肺炎や関節の腫れが見られることがある。

1カ月齢以下の幼弱牛がもっとも感染しやすく、症状も激しく、死亡率も高い。

●成牛●

○元気消失、食欲不振

○発熱

○下痢

（悪臭がある。泥状～水様便。
悪化すると血便となり、時に
偽膜が混じる。）

○乳量減少



血便
(偽膜が混入)



泥状便



水様便

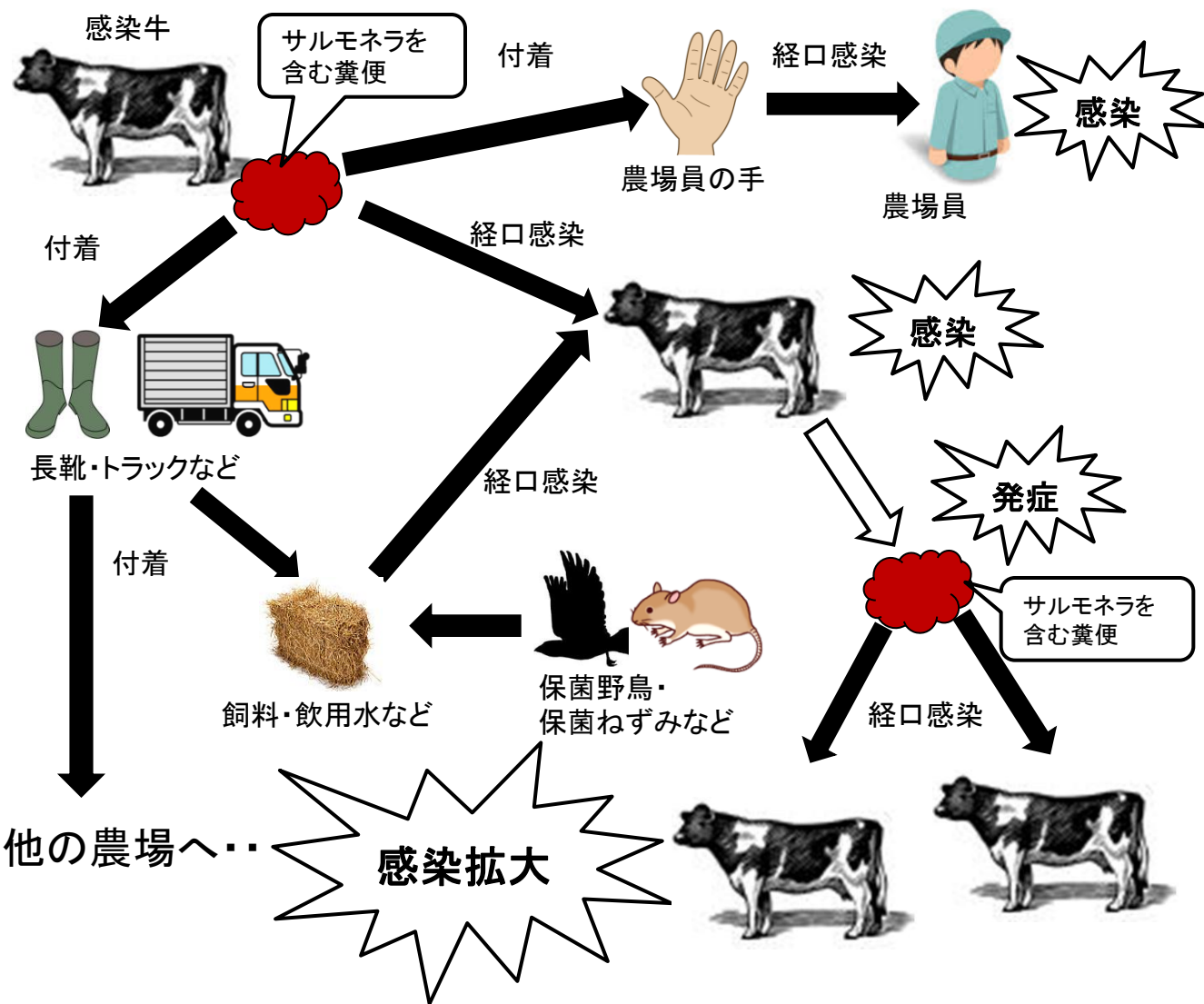
* 早産・死産を起すことがある。

分娩後がもっとも発症しやすい。症状が悪化すると死亡することがある。

※STによるサルモネラ症は届出伝染病であり、発症牛の生乳は出荷自粛となります。

牛の健康状態には常に注意し、疑わしい症状があれば
すぐに診療獣医師・家畜保健衛生所に連絡してください。

サルモネラ症の感染環



- 感染牛のふん便中に多数のサルモネラが含まれており、これが他の牛の口に入ることで感染する。
 - 感染しても発症しなかった牛や、一度発症し回復した牛のふん便中にも、しばらくはサルモネラが排出され、新たな発症(続発)の原因になる。
 - ふん便中に排出された菌は、畜舎内でしばらくの間生き残る。
 - サルモネラは牛だけでなく、人にも感染する。
- ※発症牛・保菌牛の糞便から農場内に広がるため、異常を認めた牛の早期発見・早期治療が重要となります。

サルモネラの治療・ワクチンについて

発症牛には抗生物質を用います。
またワクチンが市販されており、発症予防となります。

詳しくは獣医師にご相談ください。

サルモネラ症の予防対策

～サルモネラの外部からの侵入を防ぐには～

サルモネラはいったん牛舎に侵入し、牛が発症すると、終息させるまでに数カ月を要し、大変な手間と経済的損害をこうむります。

発生してから抑え込むより、飼養衛生管理基準を遵守し、予防することがもっとも効果的な予防方法です。

- 農場に出入りする車両消毒を実施し、外部からの侵入を防ぐ。
- 牛舎内で作業する時は専用の長靴・作業着を着用し、日常使う服や靴で牛舎内に入らない。
- 牛舎の入口に消毒槽を設置し、牛舎に出入りする際に長靴を消毒する。(作業後も)
- サルモネラは感染牛のふん便が他の牛の口から侵入して感染するため、ふん掃除で汚れたままの長靴で餌やりをしない。



消毒槽は必ず設置
(石灰が効果的)



ふん掃除後、長靴はきれいに
*特に靴の裏!

- 牛舎内の清掃、飼槽や水槽、カーフハッチの定期的な消毒により、万が一、サルモネラ症が発生しても被害が大きくなるようにする。
- サルモネラはネズミや野鳥などの野生生物も感染源となるため、野生生物が牛舎内に入りにくいようにし、畜舎内にいたら駆除する。
- 導入牛はすぐに牛群に混ぜず、隔離牛舎もしくは隔離牛房で3週間ほど飼養し、健康に異常がないことを確認してから牛群に混ぜる。
- 消毒には逆性石けんや石灰等の一般的な消毒薬が有効。

※サルモネラは人へも感染します。牛舎内作業をした後は手指をよく洗いましょう。

サルモネラ症の被害

- 経済的被害**
 - 搾乳牛への抗生物質の投与による生乳の出荷停止
 - 保菌牛の淘汰 ○検査料、医薬品代、消毒薬品代など
- その他**
 - 畜主の精神的ストレス

飼養衛生管理基準の遵守

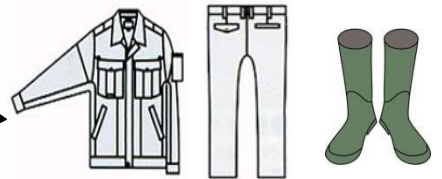
①部外者の立入制限



②海外渡航者の立入制限



③農場関係者の衛生管理



農場専用の作業着・長靴に着替え



靴底消毒

自農場



消毒槽



→ 車体消毒
(特にタイヤ・荷台)



出荷トラック・
飼料運搬車・
死亡豚運搬車など



他農場・
と畜場など

④車両消毒の徹底

⑤記録を取り、保管する (疾病発生時の感染経路の 特定のため)

- ・衛生管理区域内(農場内)に入った人間(農場員を除く)
- ・農場員が海外渡航した場合、滞在した国・地域・期間
- ・導入牛の導入元・導入日・導入頭数・健康状態
- ・出荷日、出荷・移動先、出荷頭数、健康状態
- ・飼養家畜の異常の有無

